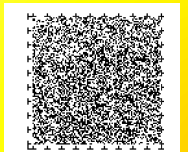
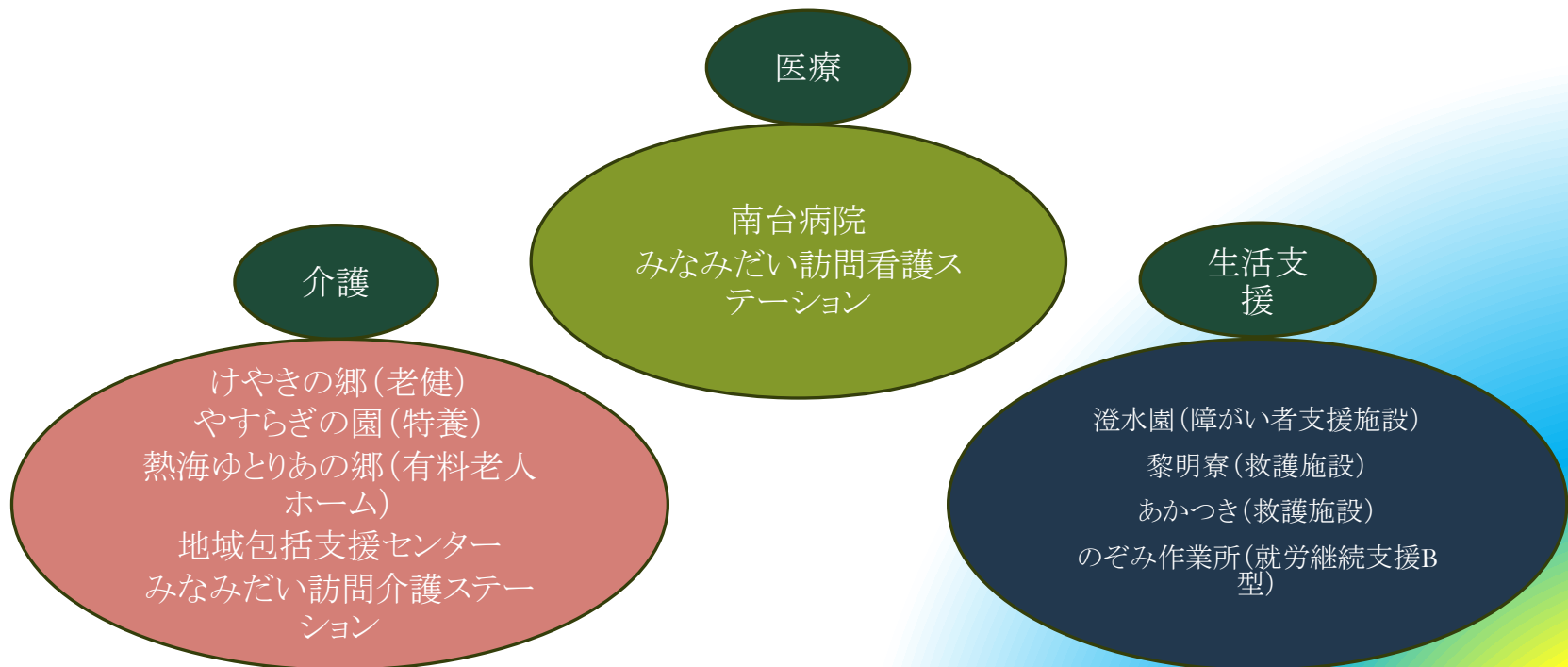




社会福祉法人黎明会





社会福祉法人黎明会

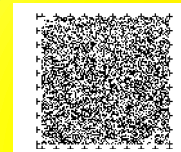
澄水園について



昭和42年北区赤羽に救護施設として運営をはじめ、平成3年に現在の東京都小平市小川町に移転。東京都で初めて知的障害者施設として開設

入所・生活介護は定員100名、短期入所は定員3名、グループホーム澄水をバックアップしている施設

- 20代～90代の幅広い年齢層の方が入所。入所者の状況に応じ、きめ細やかな対応、温かみのある雰囲気の中で安心・安全に暮らしていただけるよう配慮



その他澄水園での事業

短期入所

居宅においてその介護を行う者の疾病その他の理由により、一時的に介護ができない場合、施設へ短期間入所し、入浴、排泄及び食事の介護 その他必要な支援を行います。対象者は障がい支援区分1以上の障がい者で、介護給付費の支援決定を受ける必要があります。

グループホーム(共同生活援助)

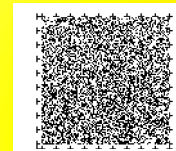
黎明会は5施設のグループホームを運営。

そのうち「こだま」、「やまびこ」、「こまち」の3施設を澄水園がバックアップ

- こだま : 男性棟7名入所
- やまびこ : 女性棟5名入所
- こまち : 女性棟7名入所

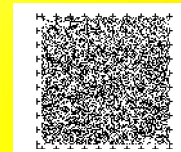
東京都地域移行促進コーディネート事業

地域移行を希望する施設入所者に移行先(グループホームや在宅等)の相談や情報を提供し、サポートする事業
マンションの1室を借り上げ、グループホームでの生活の疑似体験や地域生活に向けた訓練を行うことができる
地域移行体験室として利用している。



地域移行に関する取り組み

- 意思決定ガイドラインとマニュアルに沿って、移行確認調査書を利用
- 個々の利用者と面談。保護者会で地域移行について説明
- 確認が取れた利用者と保護者との面談
- 施設職員、サビ管、相談支援専門員等、関係者会議を開催
- 地域体験室の活用
- グループホームの宿泊体験



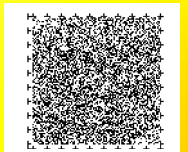
地域移行体験室の活用

● 目的

施設入所する利用者のグループホーム等への地域移行の促進を目的として、利用者がグループホームに近い環境で過ごす機会を提供することで、地域移行に対する利用者の意識向上や家族理解促進につなげます。

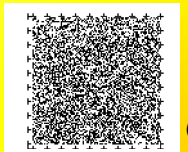
● 設置状況

- ① 社会福祉法人黎明会、障がい者支援施設澄水園（東京都小平市）
- ② 社会福祉法人すかい、障がい者支援施設皇海荘（東京都荒川区）



地域移行体験室の課題

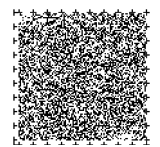
- 遠方の施設が利用する場合、日中の支援先が不足
- 利用者の施設側の支援者の確保が難しいなど、地域移行体験室を利用するための**体制構築**が大きな課題（支援者の確保が難しい場合、連泊の実施が困難）



地域移行体験室 の紹介

フォーレストヒルズ小平

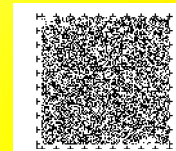
7



最寄り駅: 東大和市駅



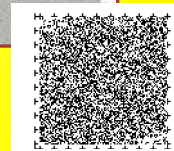
東大和市駅右折



フォーレストヒルズ 小平

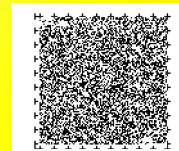


駐車場 3番

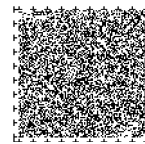


- 和室 利用者用
- 洋室 職員用

エアコン Wi-Fi テレビ 布団 タオル完備



キッチン(電子レンジ 食器乾燥機、オーブントースター等完備)



地域移行の実例

20代女性 愛の手帳2度 障害支援区分6

●入所当初の状況

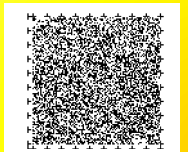
意に沿わない場面で大暴れし、ドア破壊・ものを投げるなど 危険行動が頻発
施設備品や他者の私物を取ってしまう 収集癖もみられた

●行動の安定と変化

時間の経過と支援により、収集癖が減少

大暴れなどの危険行動も 安定

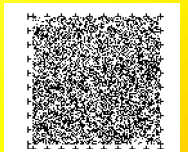
地域移行の宿泊体験を開始 → 体験を重ねる中で「母の住む大田区のグループホームへ行きたい」という本人の希望が表出



地域移行における支援者の苦慮と課題

①

- 地域移行に向け、本人の意向を尊重しながら、大田区内のグループホームへの入居と通所先の確保を同時に進める必要があった。
- しかし、生活の場と日中活動の場を同時に確保することは容易ではなく、どちらを優先して探すかについても検討を要した。まずは通所先の確保を優先する方針としたが、実習等で小平市から大田区へ通うことは距離的にも現実的ではなく、調整が難航した。
- また、母親は夜勤を含む介護職に従事しており、家族からの協力を得ることも難しい状況であった。そのため、本人の希望を中心に据えながら、グループホームと通所先の双方を見据えた支援体制の構築と生活環境の調整が課題となった。

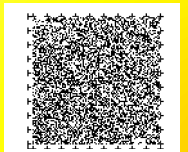


- 地域移行に向けた動き

地域移行体験室を利用しながら、出来ることを増やしていった。

- 数か月後の進展

黎明会のグループホームに空きが出て地域移行が決定 → 新しい生活がスタート



地域移行に関する課題①

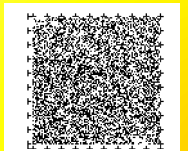
● 保護者側の課題

現状入所ができて落ち着いているのに、慣れた環境を変えたくないという反対
本人の希望と保護者の意向が一致しないケース

● 受け皿(地域資源)の不足

- ・グループホームの空き不足
- ・強度行動障害等の重度の障害者の就労先等の不足
- ・利用者の 高齢化・重度化 により、地域移行が困難となるケースが増加
- ・地域移行に関してなかなか前進が見られないことなどから、支援者の地域移行に対する意欲の低下が見られる場合がある

● 入所施設と比較した場合の金銭面、支援面での課題



地域移行に関する課題②

● 事業者側の課題

地域移行が進むと、次の入所が決まるまでの間、減収になるなど、運営・経営が厳しくなる地域で支えるための体制が整っていない

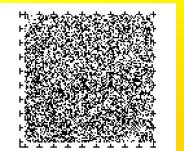
● 国の調査研究(※)で示された「地域移行に取り組まない理由」

- 地域の居住の場(グループホーム等)が少ない:44.5%
- 入所者が地域移行した際、見守りや必要なサービス提供を行う関係機関とのネットワークが不十分:43.8%
- 施設に、地域移行のために取り組むノウハウが不十分:38.6%

※令和6年度障害者総合福祉推進事業「障害者の地域支援も踏まえた障害者支援施設の在り方に係る調査研究」報告書 より

● 今後の必要性

国・自治体は、どれだけの数のグループホーム(受け皿)が必要なのかを把握し、計画的に整備する必要がある



保護者の同意を得るためのアプローチ

1. 広報活動

地域移行の説明(電話、面会時等)

保護者会における説明会

ビデオ視聴(生活の様子)

広報誌(通信等)

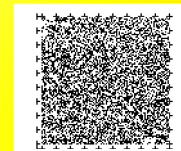
2. 保護者への説明

個別支援計画に基づく支援計画での
地域移行への説明

職員と保護者との情報交換

3. 事業所の紹介

施設等の社会資源の紹介



最後に

- 地域移行コーディネーター事業を通して思うことは、知的障がい者の意思決定支援においても住む場所、生活する場所を選ぶということは難しい。
- 住みたいところで、住みたい人という基本的な権利に配慮するために様々な機関と協力しながら慎重に検討していく必要がある。
- 現状、親亡き後が問題になっているが、様々な形で限界を迎えたご家族も支えていかなくてはならない。

